資料１－４

3. モニタリング調査結果報告

3-3.希少個体群保護林（18箇所）

（希少種の情報が含まれるため一部非公開）

3-3.希少個体群保護林（1/3）

No	保護林ID	保護林名（面積）	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・提案
6	30101	千歳シラネアオイ希少個体群保護林（13.88ha）	シラネアオイ	R2	・森林詳細調査（2箇所）	・シラネアオイの生育数は極めて少ない。 ・立木は比較的健全だった。 ・下層植生においてシカの痕跡が非常に多く確認された。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。 ・シラネアオイ個体群の維持を目指す場合は早急なシカ対策が必要である。
7	30103	定山渓ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林（23.43ha）	ダケカンバ	R2	・森林概況調査（1ルート）	・ダケカンバの立木はおおむね健全であった。 ・林床ではササが一斉に枯死していた。 ・ササ枯れにより種々の樹木の実生が発生していたが、ダケカンバの実生はやや少なかった。	10年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
8	30105	明治ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林（12.23ha）	ダケカンバ	R2	・森林概況調査（1ルート）	・ダケカンバの立木の生育状態はおおむね健全であった。 ・天然更新は少なかった。 ・その他の樹木の生育は良好である。	10年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
9	30108	千歳アカエゾマツ等遺伝資源希少個体群保護林（12.46ha）	アカエゾマツ、ミズナラ、アズキナシ	R2	・森林詳細調査（2箇所）	・立木は比較的健全であった。 ・林床ではアカエゾマツの稚樹や低木が多く確認された。	10年	**確認された影響[自然攪乱]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。 ・今後は、5年おきに詳細調査を実施して、林分の回復状況等を観察していくことが望ましい
10	30109	千歳ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林（7.9ha）	ハルニレ	R2	・森林概況調査（1ルート）	・ハルニレの立木はおおむね健全であり、大径木も生育していた。 ・稚樹や実生は確認されず、天然更新が少ない状況であった。	10年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
11	30110	支笏ウダイカンバ等遺伝資源希少個体群保護林（23.3ha）	ウダイカンバ、ハリギリ	R2	・森林概況調査（1ルート）	・ウダイカンバ、ハルニレの立木は健全であった。 ・ハリギリの実生は確認されたが、ウダイカンバの実生はほとんど確認されなかった。 ・エゾシカの食痕が確認され、食害の影響が考えられる。	10年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・今後は5年おきにモニタリングを実施し、天然更新に留意していく。

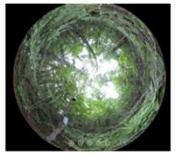
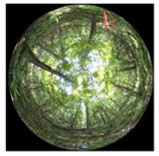
6 千歳シラネアオイ希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林詳細調査(2箇所)

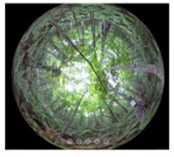
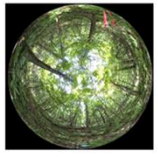
希少種の情報が含まれるため非公開

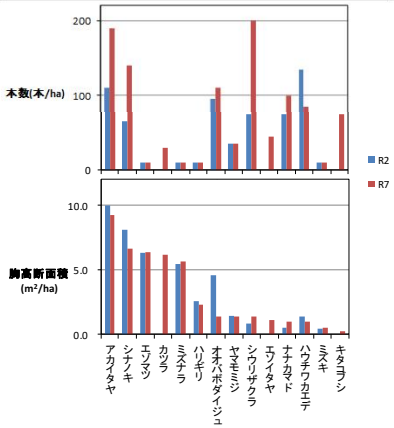
シラネアオイ（全個体、茎葉のみであった）

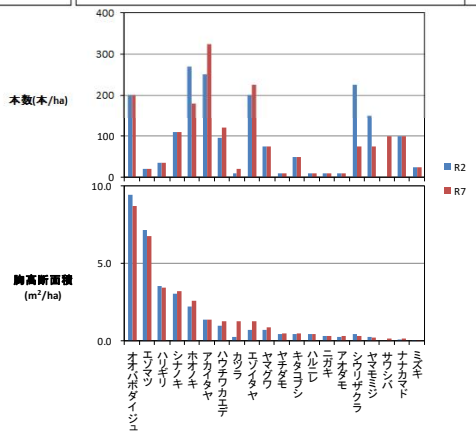
プロットNo.30101-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.30101-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。





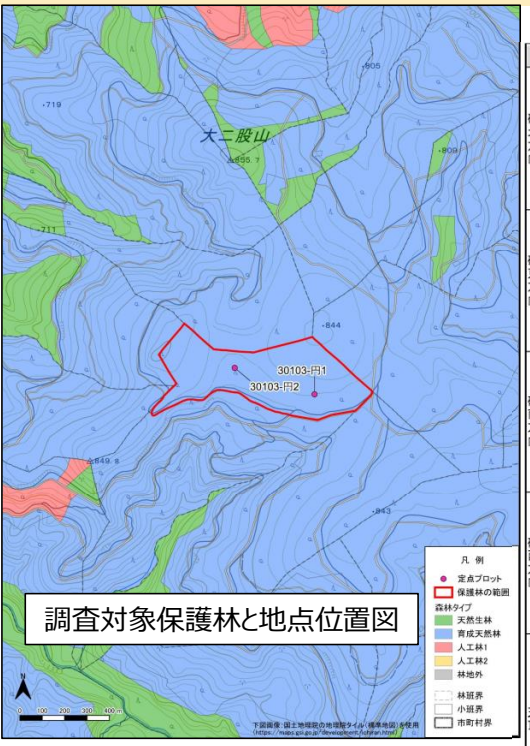
保護林森林詳細調査　総括

保護林名		千歳シラネアオイ希少個体群保護林			
保護対象種		シラネアオイ			
プロットNo.		30101-円1		30101-円2	
旧No.		30101-1(1-1)		30101-2(1-1)	
調査年度		R2	R7	R2	R7
調査日		7月6日	10月17日	7月6日	6月6日
林分状況	【高】主要構成樹種	シナノキ	シナノキ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
	【高】樹高	20～27m	20～39m	20～31m	20～31m
	【高】植被率	-	70%	70%	70%
	【高】DBH	25～90cm	25～90cm	20～66cm	20～66cm
	【亜】主要構成樹種	アカイタヤ	アカイタヤ	アカイタヤ	アカイタヤ
	【亜】樹高	7～15m	7～16m	7～14m	7～14m
	【亜】植被率	-	60%	70%	70%
	【亜】DBH	4～17cm	4～17cm	7～14cm	7～14cm
	【低】主要構成樹種	シウリザクラ	シウリザクラ	エゾイタヤ	エゾイタヤ
	【低】樹高	2～6m	2～5m	2～6m	2～6m
	【低】植被率	-	40%	20%	20%
	【低】DBH	2～6cm	2～5cm	2～4cm	2～4cm
	最大樹高樹種	エゾマツ	エゾマツ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
	樹高	27.4m	38.9m	31.1m	31.1m
	最大直径樹種	エゾマツ	エゾマツ	ハリギリ	ハリギリ
	直径	89.9cm	90.3cm	66.2cm	66.2cm
	保護対象種の本数割合	-	-	-	-
	気象害	風害(微)	-	風害(微)	風害(微)
	病虫害	-	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	古い風倒木が散見される	-	古い風倒木が散見される	古い風倒木がみられるが影響は軽微
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕	食痕	食痕	食痕
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	小	大	小	中
	痕跡のコメント	オシダ等にシカ食痕あり	シカの食痕多い	オシダ等にシカ食痕あり	シカの食痕やや多い
林床植生	優占する植物種	オシダ	オシダ	オシダ	オシダ
	植被率	80%	50%	80%	70%
	植生高	-	0.1～1.0m	-	0.1～1.2m
	天然更新状況	普通	普通	普通	普通
保護林の状況等		シラネアオイの一部でエゾシカ食痕がみられたが、群落への影響は軽微である。	立木は概ね健全。中径木の生長がみられる。シラネアオイは3株のみ確認された。	シラネアオイの一部でエゾシカ食痕がみられたが、群落への影響は軽微である。	立木は低木、亜高木ともに健全。大径木もみられる。林床の種数は減少。ササはみられない。シラネアオイは9株確認された。
林分等の状況		大きな変化は認められない	エゾシカの影響あり	大きな変化は認められない	エゾシカの影響あり
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣　イ：病虫害　ウ：外来種 エ：温暖化　オ：自然攪乱　カ：その他 －：特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

確認された影響[野生鳥獣]
・シラネアオイの生育数は極めて少ない。
・立木は比較的健全だった。
・下層植生においてシカの痕跡が非常に多く確認された。
・シラネアオイ個体群へのシカの影響を低減する対策が必要である。

7 定山渓ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(1ルート)

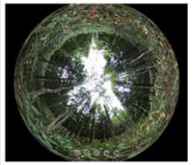
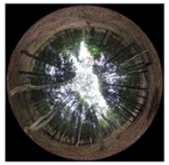


調査対象保護林と地点位置図

定点プロットNo.30103-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			立木に大きな変化はないが、林床ではササの一斉枯れが確認された。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			立木に大きな変化はないが、林床ではササの一斉枯れが確認された。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

定点プロットNo.30103-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			立木に大きな変化はないが、林床ではササの一斉枯れが確認された。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			立木に大きな変化はないが、林床ではササの一斉枯れが確認された。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

保護林森林詳細調査　総括

保護林名		定山渓ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林		
保護対象種		ダケカンバ		
プロットorルートNo.注		30103-円1	30103-円2	30103
旧No.		30103-1	30103-2	
調査年度		R2		R7
調査日		6月22日	6月22日	6月26日
林分状況	【高】主要構成樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ダケカンバ
	【高】樹高	20m以上	20m以上	15～26m
	【高】植被率	-	-	30%
	【高】DBH	30cm以上	30cm以上	18～97cm
	【亜】主要構成樹種	ナナカマド	ナナカマド、キハダ	アカエゾマツ、ダケカンバ
	【亜】樹高	10m以上	5～10m	7～14m
	【亜】植被率	-	-	20%
	【亜】DBH	10～20cm	20cm未満	8～20cm
	【低】主要構成樹種	なし	なし	キハダ
	【低】樹高	-	-	2～4m
	【低】植被率	-	-	5%
	【低】DBH	-	-	2～4cm
	最大樹高樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	エゾマツ
	樹高	20m	23m	26.0m
	最大直径樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	エゾマツ
	直径	40cm	40cm	97.6cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	20～50%	20～50%
	気象害	-	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	足跡	足跡	シカ道、足跡、糞、剥皮
	その他痕跡	-	-	葉の食害(昆虫)
	痕跡の程度	微	微	微
	痕跡のコメント	-	-	一部ハムシの食害あり
林床植生	優占する植物種	チシマザサ	チシマザサ	クマイザサ枯(ツタウルシ)
	植被率	密生	密生	20%
	植生高	0.5～1.5m	0.5～1.5m	0.1～0.8m
	天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→少ない 保護対象種以外→普通
保護林の状況等		ダケカンバは疎林で、成立が古いせいか枯死しているものも点在する。	ダケカンバは大経木が多く林床はササが密生する。アカエゾマツが補植されている。	ダケカンバの大経木が多くみられる。保護林の半分以上の面積でアカエゾマツが補植されている。クマイザサは一斉に枯れており、実生がみられる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

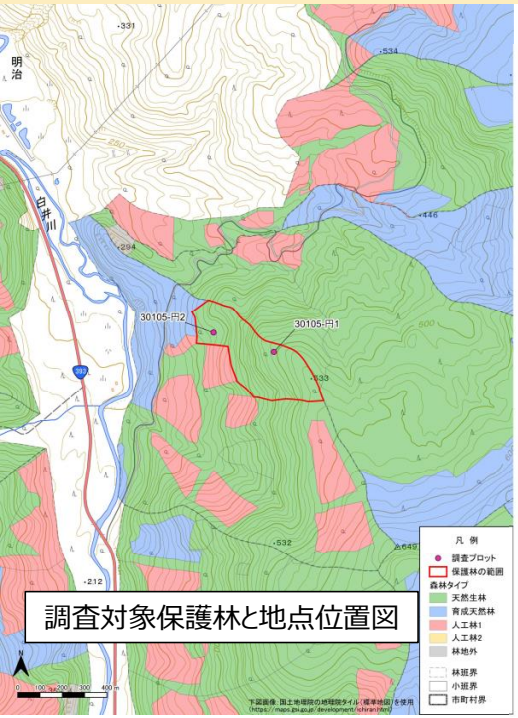
注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、
R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。

ササの一斉枯れがみられる林床

確認された影響[特になし]
・ダケカンバの立木はおおむね健全であった。
・林床ではササが一斉に枯死していた。
・ササ枯れにより様々な樹木の実生が発生していたが、ダケカンバの実生はやや少なかった。今後はその他広葉樹が生長していくと考えられる。
・引き続きモニタリングによる経過を観察していく。

8 明治ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(1ルート)



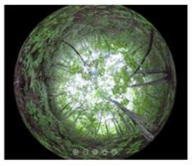
調査対象保護林と地点位置図

保護林の景観

定点プロットNo.30105-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

定点プロットNo.30105-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

保護林森林概況調査　総括

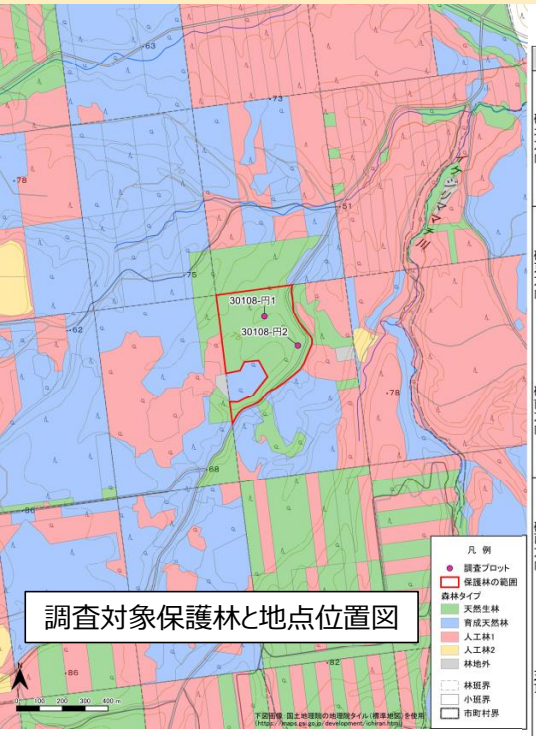
保護林名		明治ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林		
保護対象種		ダケカンバ		
ブロットorルートNo.注		30105-円1	30105-円2	30105
旧No.		30105-1	30105-2	
調査年度		R2		R7
調査日		6月19日	6月19日	6月26日
林分状況	【高】主要構成樹種	ダケカンバ、シナノキ	ダケカンバ	ミズナラ
	【高】樹高	20m以上	10～20m	18～27m
	【高】植被率	-	-	-
	【高】DBH	30cm以上	30cm未満	15～92cm
	【亜】主要構成樹種	ハリギリ、エゾイタヤ	エゾイタヤ、ハウチワカエデ	アカイタヤ
	【亜】樹高	5～10m	5～10m	7～16m
	【亜】植被率	-	-	-
	【亜】DBH	10cm未満	10cm未満	6～22cm
	【低】主要構成樹種	シナノキ、ミヤマガマズミ	ミヤマガマズミ、シナノキ	アカイタヤ、シナノキ
	【低】樹高	1～5m	1～5m	2～6m
	【低】植被率	-	-	-
	【低】DBH	5cm未満	5cm未満	2～6cm
	最大樹高樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ミズナラ
	樹高	20m	18m	27.0m
	最大直径樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ミズナラ
	直径	80cm	40cm	92.8cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	20～50%	20%以下
	気象害	-	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	足跡、食痕	シカ道、足跡、食痕	シカ道、足跡、糞、食痕
	その他痕跡	-	-	-
	痕跡の程度	微	微	微
	痕跡のコメント	-	-	下層植生のエゾシカ食痕がみられるが、影響は軽微
林床植生	優占する植物種	クマイザサ、ハイイヌガヤ	ミヤマガマズミ	クマイザサ(枯・生)
	植被率	疎生または散在	疎生または散在	80%
	植生高	05m未満	05m未満	01～23m
	天然更新状況	保護対象種→少ない 保護対象種以外→少ない	保護対象種→なし 保護対象種以外→普通	保護対象種→なし 保護対象種以外→多い
保護林の状況等		林床植生は疎。途中の岩礫地の下段にはアカエゾマツもみられた。ミズナラ、シナノキ、ダケカンバ、エゾイタヤの大径木が散在する。	ダケカンバは中腹には少なく、上部の台地に優占する。大径木は幹夫れしているものもある。古い作業道が多数みられる。	ミズナラが優占しダケカンバは少ない。生育しているダケカンバはDBH40cm以下で更新木はみられないが、シラカンバ、ウダイカンバの生育は旺盛。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 －:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、
R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。

確認された影響[特になし]
・ダケカンバの立木の生育状態はおおむね健全であった。
・天然更新は少なかった。
・ダケカンバは陽樹であり、その他の樹木の生育は良好であるため、現在の状況は遷移過程と考えられる。

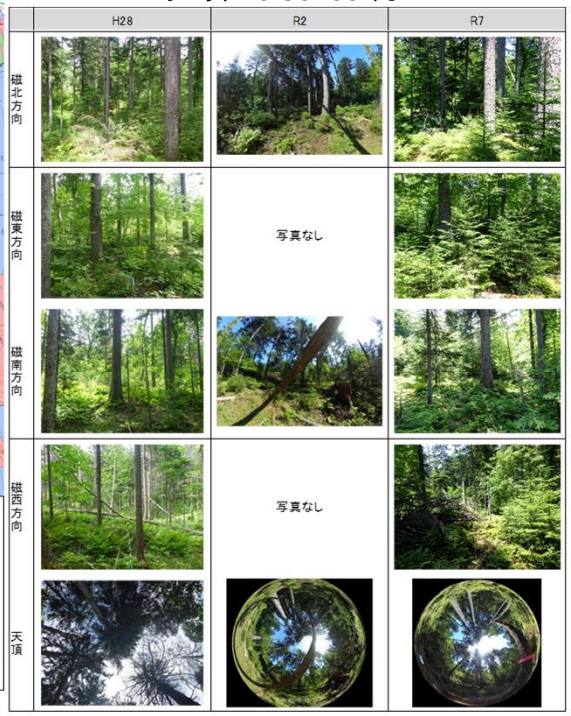
9 千歳アカエゾマツ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林詳細調査(2箇所)

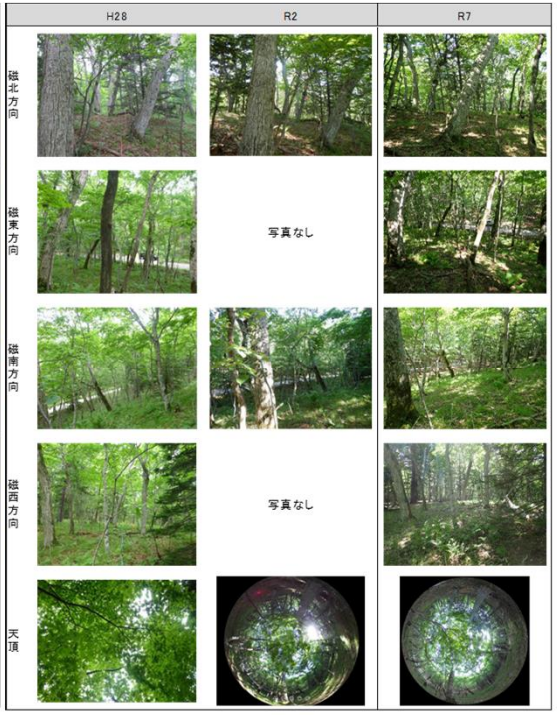


調査対象保護林と地点位置図

プロットNo.30108-円1



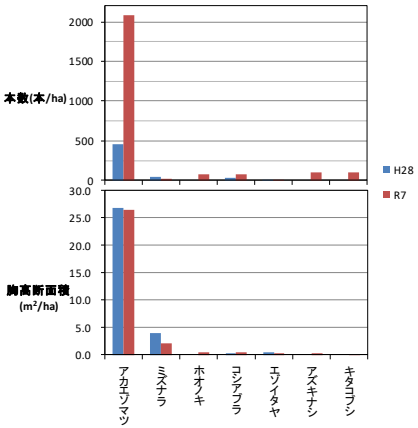
プロットNo. 30108-円2

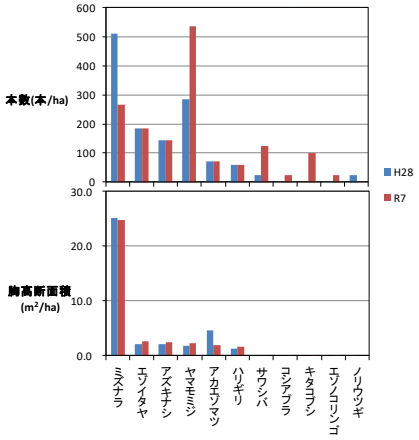


保護林森林詳細調査　総括

保護林名		千歳アカエゾマツ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		アカエゾマツ、ミズナラ、アズキナシ			
プロットNo.		30108-円1		30108-円2	
ID No.		30108-1		30108-2	
調査年度		R2	R7	R2	R7
調査日		7月6日	6月24日	7月6日	6月24日
林分状況	【高】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	ミズナラ
	【高】樹高	20m以上	24～30m	20m以上	12～23m
	【高】植被率	-	50%	-	90%
	【高】DBH	30cm以上	22～66cm	30cm以上	20～33cm
	【亜】主要構成樹種	ホオノキ	アカエゾマツ、ミズナラ	ミズナラ	ヤマモミジ
	【亜】樹高	10m以上	7～20m	10m以上	7～10m
	【亜】植被率	-	40%	-	80%
	【亜】DBH	20cm未満	8～25cm	20cm未満	10～25cm
	【低】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	ヤマモミジ
	【低】樹高	1m以下	2～5m	1～5m	2～6m
	【低】植被率	-	40%	-	20%
	【低】DBH	5cm未満	1～5cm	5cm未満	2～5cm
	最大樹高樹種 樹高	アカエゾマツ 23m	アカエゾマツ 28.7m	アカエゾマツ 20m	アカエゾマツ 28.8m
	最大直径樹種 直径	アカエゾマツ 50cm	アカエゾマツ 86.2cm	ミズナラ 40cm	アカエゾマツ 66.3cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	20～50%	20～50%
	気象害	風害(中)	風害(小)	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	プロット内に風倒木多い 幹折れ木もあり	風害による幹折れあり	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、食痕	剥皮	シカ道、足跡、食痕	-
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	微	微	微	-
	痕跡のコメント	-	シカ剥皮が見られるが、影響は軽微	-	-
林床植生	優占する植物種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	オシダ	スゲ属の一種
	植被率	密生	80%	疎生または散在	50%
	植生高	0.5m未満	0.1～2.0m	0.5m未満	0.1～1.1m
	天然更新状況	保護対象種→多い 保護対象種以外→普通	保護対象種→多い 保護対象種以外→多い	保護対象種→多い 保護対象種以外→多い	保護対象種→多い 保護対象種以外→多い
保護林の状況等		アカエゾマツ実生が多くみられる。	アカエゾマツ林。10年前よりも高木は減少しているが、アカエゾマツの更新木は多い。ミズナラ、アズキナシの更新も確認された。シカの痕跡は少ない。	ミズナラは大径木が多い。ミズナラ、ハリギリ、イヌエンジュ、ハルニレ、アズキナシなど多種の樹木の実生がみられる。	ミズナラ林。立木は健全であり、実生およびドングリも多くみられた。シカの痕跡は少ない。アカエゾマツの生育個体も確認された。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：外来種 エ：温暖化 オ：自然攪乱 カ：その他 ー：特になし		確認された影響[オ] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[オ:古い] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

アカエゾマツの低木

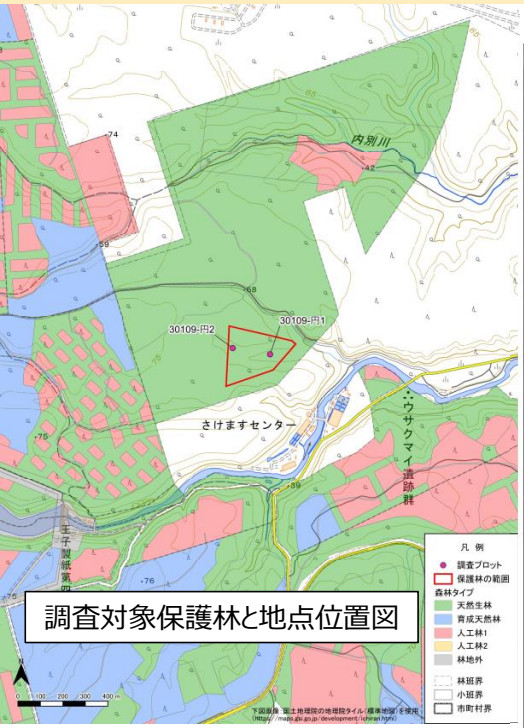




確認された影響[自然攪乱]
・前回調査時よりも以前に中程度の風害を受けていたが、今年度の調査では新たな立木の被害はなく、比較的健全な状態であった。
・林床ではアカエゾマツの稚樹や低木が多く確認された。
・今後は、5年おきに詳細調査を実施して、林分の回復状況等を観察していくことが望ましい。

10 千歳ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林

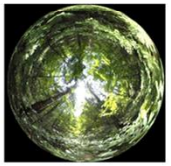
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(1ルート)



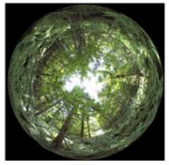
調査対象保護林と地点位置図

保護林の外観

定点プロットNo.30109-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

定点プロットNo.30109-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

保護林森林概況調査　総括

保護林名		千歳ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林		
保護対象種		ハルニレ		
プロットorルートNo.注		30109-円1	30109-円2	30109
旧No.		30109-1	30109-2	
調査年度		R2		R7
調査日		6月17日	6月17日	6月25日
林分状況	【高】主要構成樹種	ハルニレ	ハルニレ、オオバヤナギ	ハルニレ、ミズナラ、ドロノキ
	【高】樹高	20m以上	20m以上	25～40m
	【高】植被率	-	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	30cm以上	25～73cm
	【亜】主要構成樹種	ハルニレ、カツラ	ヤマグワ、キタコブシ	サワシバ、エゾイタヤ
	【亜】樹高	5～10m	5～10m	7～12m
	【亜】植被率	-	-	40%
	【亜】DBH	10cm未満	10cm未満	7～20cm
	【低】主要構成樹種	キタコブシ	キタコブシ	キタコブシ
	【低】樹高	1～5m	1～5m	2～6m
	【低】植被率	-	-	20%
	【低】DBH	5cm未満	5cm未満	2～5cm
	最大樹高樹種 樹高	ハルニレ 20m	オオバヤナギ 22m	ドロノキ 40.0m
	最大直径樹種 直径	ハルニレ 40cm	ハルニレ 40cm	ドロノキ 73.0cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	50～80%	20%
	気象害	-	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、食痕	シカ道、食痕	シカ道、足跡、糞、食痕
	その他痕跡	-	-	-
	痕跡の程度	小	小	微
	痕跡のコメント	シカ痕跡は沢近くに多い	-	-
林床植生	優占する植物種	オシダ	オシダ	オシダ、フッキソウ
	植被率	群生または散在	密生	80%
	植生高	0.5～1.5m	0.5～1.5m	0.1～1.5m
	天然更新状況	保護対象種→少ない 保護対象種以外→少ない	保護対象種→少ない 保護対象種以外→普通	保護対象種→少ない 保護対象種以外→多い
保護林の状況等		沢近くにはハルニレ、ドロノキなどの大径木がみられる。周辺の丘の上にはミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ、エゾイタヤ、サワシバ等の中～大径木がみられる。	沢近くにはハルニレ、ドロノキなどの大径木がみられる。周辺の斜面にはミズナラ、サワシバなどが見られる。キタコブシ、アオダモの幼木が多い。	谷地形にハルニレが多く、大径木もみられる。斜面から尾根にかけてはミズナラが優占する。更新木は少なく、更新はやや不安である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、
R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。

確認された影響[特になし]
・ハルニレの立木はおおむね健全であり、大径木も生育していた。
・稚樹や実生は確認されず、天然更新が少ない状況であった。
・今後は天然更新に留意しつつ、引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

11 支笏ウダイカンバ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(1ルート)

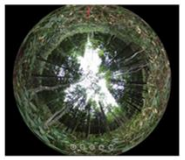
調査対象保護林と地点位置図

ハリギリの実生

定点プロットNo.30110-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			立木に大きな変化はないが、林床ではササ枯れが確認された。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			立木に大きな変化はないが、林床ではササ枯れが確認された。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

定点プロットNo. 30110-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			立木に大きな変化はないが、林床ではササ枯れが確認された。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			立木に大きな変化はないが、林床ではササ枯れが確認された。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

保護林森林概況調査　総括

保護林名		支笏ウダイカンバ等遺伝資源希少個体群保護林		
保護対象種		ウダイカンバ、ハリギリ		
プロットorルートNo.注		30110-円1	30110-円2	30110
旧No.		30110-1	30110-2	
調査年度		R2		R7
調査日		9月7日	9月7日	6月25日
林分状況	【高】主要構成樹種	エゾイタヤ	ウダイカンバ、トドマツ、ハリギリ	ハリギリ、カツラ、イタヤカエデ
	【高】樹高	20m以上	20m以上	20～38m
	【高】植被率	-	-	70%
	【高】DBH	30cm以上	30cm以上	24～103cm
	【亜】主要構成樹種	エゾイタヤ、ナナカマド	アオダモ、エゾイタヤ、トドマツ	ヤマモミジ
	【亜】樹高	5～10m	10m以上	10～16m
	【亜】植被率	-	-	40%
	【亜】DBH	10cm未満	20cm未満	15～25cm
	【低】主要構成樹種	エゾイタヤ、キタコブシ、アオダモ	ハウチワカエデ、エゾイタヤ	チシマザサ、クマイザサ(枯)
	【低】樹高	1～5m	1～5m	4～6m
	【低】植被率	-	-	5%
	【低】DBH	5cm未満	5cm未満	3～6cm
	最大樹高樹種 樹高	エゾイタヤ 25m	ハリギリ 23m	カツラ 38.0m
	最大直径樹種 直径	エゾイタヤ 60cm	ハリギリ 60cm	カツラ 103.0cm
	保護対象種の本数割合	20%以下	20～50%	20%以下
	気象害	-	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、食痕	シカ道、食痕	シカ道、足跡、糞、食痕
	その他痕跡	-	-	-
	痕跡の程度	大	小	中
	痕跡のコメント	シカの休息跡あり ササの食痕多い	-	シカの食痕やや多い
林床植生	優占する植物種	チシマザサ	チシマザサ	クマイザサ
	植被率	密生	密生	60%
	植生高	0.5～1.5m	0.5～1.5m	0.1～2.3m
	天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし	保護対象種→少ない 保護対象種以外→普通	保護対象種→少ない 保護対象種以外→普通
保護林の状況等		林況に変化なし	アオダモ、エゾイタヤの実生が見られる。	カツラなどの大径木が多く、立木の生育は健全である。ハリギリの実生あり。ササ枯れの割りに実生が少なく、シカの食害を受けている可能性があり、更新はやや不安である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[ー] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ー] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、
R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。

確認された影響[野生鳥獣]
・ウダイカンバ、ハルニレの立木は健全であった。
・ハリギリの実生は確認されたが、ウダイカンバの実生はほとんど確認されなかった。
・下層植生ではエゾシカの食痕が確認された。広葉樹実生が少ないため、食害を受けている可能性が考えられる。
・ウダイカンバは陽樹であり、その他広葉樹林への遷移過程の可能性がある。
・今後は5年おきにモニタリングを実施し、天然更新に留意していく。

3-3.希少個体群保護林（2/3）

No	保護林ID	保護林名（面積）	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・提案
12	30503	門別カシワ遺伝資源希少個体群保護林	カシワ	R2	・森林概況調査（1ルート）	・カシワの立木は健全であった。 ・カシワの実生は確認されたが、稚樹や低木は少なかった。 ・その他広葉樹の低木はある程度確認された。	10年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
13	30601	春別ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林	ミズナラ	R2	・森林概況調査（1ルート）	・ミズナラの立木の状態は健全であった。 ・林床にはミズナラ等の実生が確認された。	10年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
14	30603	三石カツラ遺伝資源希少個体群保護林	カツラ	R2	・森林概況調査（1ルート）	・良好なカツラの立木が多く確認された。 ・林床にはシカの痕跡が多かった。 ・カツラの天然更新は確認されなかった。	10年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
15	31701	屈斜路イチイ希少個体群保護林	イチイ	R2	・森林詳細調査（2箇所）	・イチイの立ち枯れが多く、天然更新は確認されなかった。 ・エゾシカによる食害を受けている状況が確認された。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続き5年おきに詳細調査を実施してその回復状況をモニタリングする。
16	31702	釧路アオダモ等遺伝資源希少個体群保護林	アオダモ、イチイ	R2	・森林詳細調査（2箇所）	・エゾシカによる剥皮が確認された。 ・林床が不嗜好植物のシラネワラビに変化していた。 ・天然更新の確認はごくわずかであった。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続き5年おきに詳細調査を実施し、経過を観察することが望ましい。
17	31703	真竜ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林	ダケカンバ	R2	・森林概況調査（1ルート）	・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。 ・ダケカンバの立木は健全であったが、個体数は少なかった。	10年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

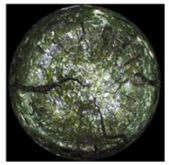
12 門別カシワ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(1ルート)

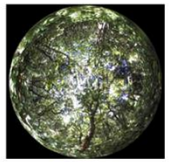
調査対象保護林と地点位置図

カシワの実生

定点プロットNo.30503-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

定点プロットNo. 30503-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

保護林森林概況調査　総括

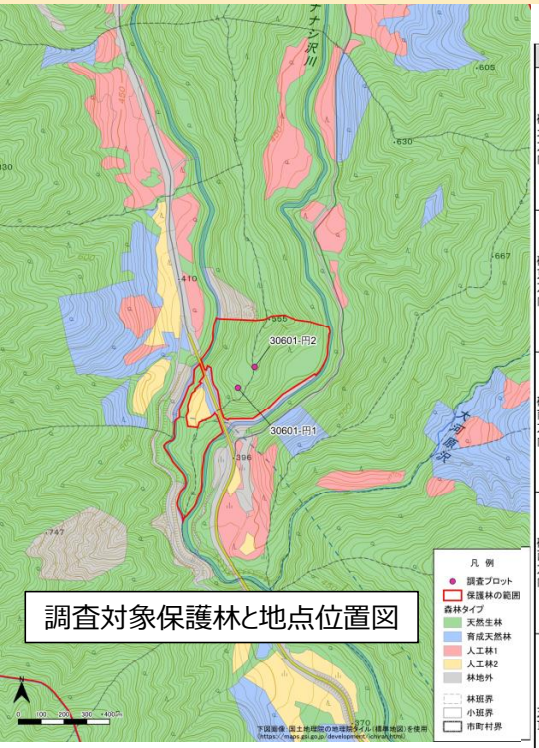
保護林名		門別カシワ遺伝資源希少個体群保護林		
保護対象種		カシワ		
プロットorルートNo.注		30503-円1	30503-円2	30503
旧No.		30503-1	30503-2	
調査年度		R2		R7
調査日		8月20日	8月20日	8月5日
林分状況	【高】主要構成樹種	カシワ、ハリギリ	カシワ	カシワ
	【高】樹高	10～20m	10～20m	10～15m
	【高】植被率	-	-	90%
	【高】DBH	30cm未満	30cm未満	20～40cm
	【亜】主要構成樹種	ヤマグワ	ヤマグワ	カシワ
	【亜】樹高	5～10m	5m以下	6～9m
	【亜】植被率	-	-	20%
	【亜】DBH	10cm未満	10cm未満	10～25cm
	【低】主要構成樹種	なし	エゾニワトコ	ヤマグワ
	【低】樹高	-	1～5m	2～5m
	【低】植被率	-	-	20%
	【低】DBH	-	5cm未満	2～6cm
	最大樹高樹種	カシワ	カシワ	カシワ
	樹高	12m	12m	15.4m
	最大直径樹種	カシワ	カシワ	カシワ
	直径	30cm	30cm	58.5cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	50～80%
	気象害	-	-	-
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、食痕	シカ道、足跡、食痕	シカ道、糞、骨・死体
	その他痕跡	-	-	-
	痕跡の程度	大	中	微
	痕跡のコメント	ササの食痕多い	-	-
林床植生	優占する植物種	ミヤコザサ	セイタカアワダチソウ	ミヤコザサ・オオイタドリ
	植被率	密生	疎性または散在	80%
	植生高	0.5m未満	0.5～1.5m	0.1～1.8m
	天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし	保護対象種→普通 保護対象種以外→普通
保護林の状況等		実生は少ない。牧草地と隣接しており、林縁にミツデカエデ、カンボクなどが見られる。	低木層にエゾイタヤ、ハリギリ、キタコブシなどが見られるが実生はなし。	カシワの立木は健全。実生は普通にみられるが、稚樹はなく低木も少ない。更新は少々不安である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、
R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。

確認された影響[特になし]
・カシワの立木は健全であった。
・カシワの実生は確認されたが、稚樹や低木は少なかった。
・その他広葉樹の低木はある程度確認された。
・保全状況は良好だが、今後の天然更新に留意し、シカ被害や気象害を含め継続的にモニタリングする。

13 春別ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林

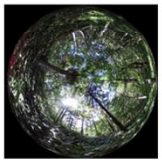
実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(1ルート)



調査対象保護林と地点位置図

ミズナラの実生

定点プロットNo.30601-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

定点プロットNo.30601-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

保護林森林概況調査　総括

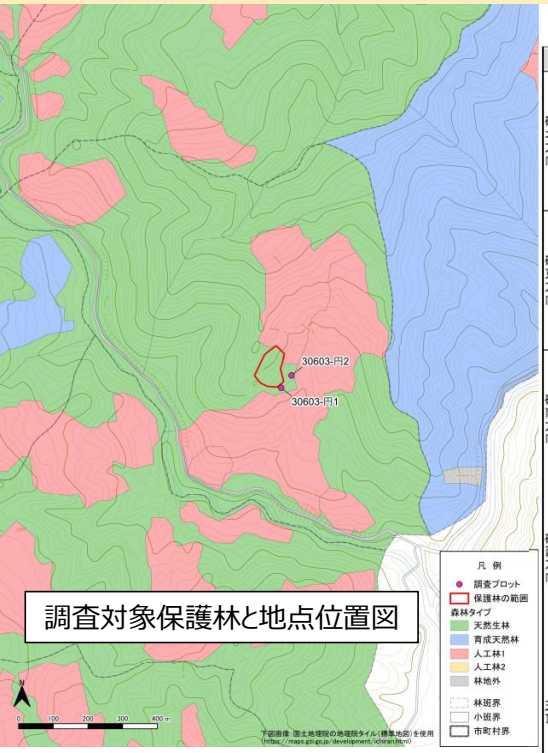
保護林名		春別ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林		
保護対象種		ミズナラ		
プロットorルートNo.注		30601-円1	30601-円2	30601
旧No.		30601-1	30601-2	
調査年度		R2		R7
調査日		7月27日	7月27日	9月12日
林分状況	【高】主要構成樹種	ミズナラ	エゾイタヤ	ミズナラ、トドマツ
	【高】樹高	20m以上	10～20m	18～28m
	【高】植被率	-	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	30cm以上	20～114cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ	エゾイタヤ、ナナカマド、シナノキ	エゾイタヤ、シナノキ
	【亜】樹高	5～10m	5～10m	8～17m
	【亜】植被率	-	-	50%
	【亜】DBH	10cm未満	10cm未満	7～22cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、ホオノキ	トドマツ	ハウチワカエデ、ヤマモミジ
	【低】樹高	1～5m	1～5m	2～8m
	【低】植被率	-	-	30%
	【低】DBH	5cm未満	5cm未満	1～7cm
	最大樹高樹種 樹高	ミズナラ 23m	ミズナラ 22m	ミズナラ 28m
	最大直径樹種 直径	ミズナラ 80cm	ミズナラ 60cm	ミズナラ 114cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	20%以下	20～50%
	気象害 病虫害	風害(微) -	- -	- -
	気象害、病虫害のコメント	風倒木が見られるが、影響は軽微	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度	シカ道 - 微	シカ道 - 微	角研、寝床 - 中
	痕跡のコメント	-	-	エゾシカの痕跡やや多い
林床植生	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率 植生高	密生 0.5～1.5m	密生 0.5～1.5m	100% 0.1～1.7m
	天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→少ない 保護対象種以外→少ない	保護対象種→普通 保護対象種以外→普通
保護林の状況等		林況に変化なし	林況に変化なし	ミズナラはDBH20～40cm程度の個体が多く、斜面上部に大経木が散見される。林床はクマイザサが密生するが、樹木の実生は普通にみられる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、
R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。

確認された影響[特になし]
・ミズナラの立木の状態は健全であった。
・林床にはミズナラ等の実生が確認された。
・シカの影響や気象害等を注視しつつ、引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

14 三石カツラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(1ルート)



調査対象保護林と地点位置図

保護林内の様子

定点プロットNo.30603-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

定点プロットNo. 30603-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

保護林森林概況調査　総括

保護林名		三石カツラ遺伝資源希少個体群保護林		
保護対象種		カツラ		
プロットorルートNo.注		30603-円1	30603-円2	30603
旧No.		30603-1	30603-2	
調査年度		R2		R7
調査日		8月21日	8月21日	9月10日
林分状況	【高】主要構成樹種	カツラ	カツラ	カツラ
	【高】樹高	20m以上	20m以上	18～31m
	【高】植被率	-	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	30cm以上	19～104cm
	【亜】主要構成樹種	エゾイタヤ	ハウチワカエデ	エゾイタヤ
	【亜】樹高	5～10m	5～10m	8～17m
	【亜】植被率	-	-	50%
	【亜】DBH	10cm未満	10cm未満	5～19cm
	【低】主要構成樹種	なし	エゾイタヤ	サワシバ
	【低】樹高	-	1～5m	3～7m
	【低】植被率	-	-	10%
	【低】DBH	-	5cm未満	2～8cm
	最大樹高樹種	カツラ	カツラ	カツラ
	樹高	20m	25m	31m
	最大直径樹種	カツラ	カツラ	カツラ
	直径	80cm	60cm	104cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	80%以上	20～50%
	気象害	-	-	風害(微)
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、食痕	シカ道、足跡、食痕	シカ道、足跡、食痕
	その他痕跡	-	-	-
	痕跡の程度	大	大	中
	痕跡のコメント	下層植生の食痕多い	下層植生の食痕多い	-
林床植生	優占する植物種	ジュウモンジシダほか	オシダ、ジュウモンジシダ	ミヤコザサ、オシダ、ジュウモンジシダ
	植被率	疎性または散在	疎性または散在	80%
	植生高	0.5m未満	0.5m未満	0.1～0.7m
	天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし
保護林の状況等		エゾシカの採餌圧が高く、樹木の実生はみられない。	アオダモ、エゾイタヤの実生がみられる。カツラは斜面中腹から上部で大径木がみられる。	樹高30mを超えるカツラの大木が多くみられる老齢林。稚樹、実生はみられず、低木もわずかで更新にはやや不安が残る。
林分等の状況		エゾシカの影響あり	エゾシカの影響あり	エゾシカの影響あり
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然撹乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、
R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。

確認された影響[野生鳥獣]
・良好なカツラの立木が多く確認された。
・林床にはシカの痕跡が多かった。
・カツラの天然更新は確認されなかった。
・今後はカツラの更新状況に留意しつつ、引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

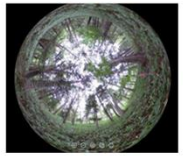
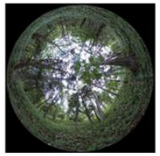
15 屈斜路イチイ希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林詳細調査(2箇所)

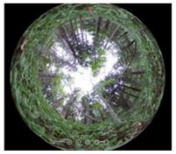
調査対象保護林と地点位置図

保護林内の様子

プロットNo.31701-円1

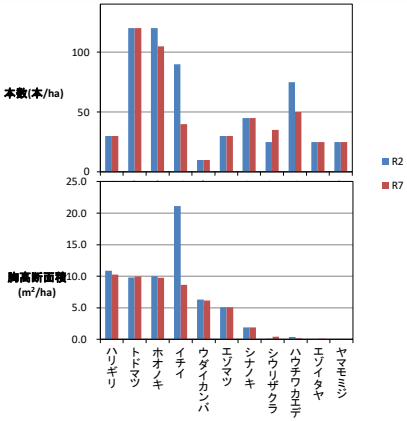
	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

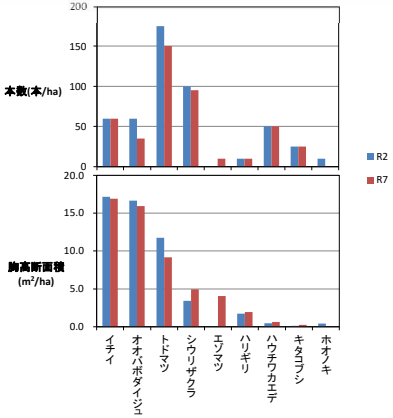
プロットNo. 31701-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

保護林森林詳細調査　総括

保護林名		屈斜路イチイ希少個体群保護林			
保護対象種		イチイ			
プロットNo.		31701-円1		31701-円2	
旧No.		31701-1(153-1)		31701-2(153-2)	
調査年度		R2	R7	R2	R7
調査日		8月27日	8月29日	8月27日	8月29日
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、エゾマツ	トドマツ、エゾマツ	トドマツ、ハリギリ	トドマツ、ハリギリ
	【高】樹高	14～33m	15～39m	14～35m	15～34m
	【高】植被率	-	80%	-	70%
	【高】DBH	15～89cm	18～88cm	24～142cm	25～141cm
	【亜】主要構成樹種	イチイ	イチイ	イチイ	イチイ
	【亜】樹高	7～12m	7～12m	7～14m	7～14m
	【亜】植被率	-	30%	-	40%
	【亜】DBH	6～45cm	6～45cm	15～64cm	15～64cm
	【低】主要構成樹種	ハウチワカエデ	ハウチワカエデ	エゾイタヤ	シウリザクラ
	【低】樹高	3～5m	3～5m	4m	6m
	【低】植被率	-	10%	-	10%
	【低】DBH	2～5cm	2～5cm	2～5cm	2～6cm
	最大樹高樹種	ウダイカンバ	トドマツ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
	樹高	32.9m	39.5m	35.2m	34.2m
	最大直径樹種	ウダイカンバ	ウダイカンバ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
	直径	89.5cm	88.5cm	142.0cm	141.0cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	20～50%	20～50%	20～50%
	気象害	風害(微)	風害(微)	-	風害(微)
	病虫害	-	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	風倒木がわずかにみられるが、影響は軽微	風倒木がわずかにみられるが、影響は軽微	-	風倒木がわずかにみられるが、影響は軽微
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕、剥皮	食痕、剥皮	食痕、剥皮、角研	剥皮
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	小	小	小	小
	痕跡のコメント	イチイ、ハウチワカエデにシカ剥皮あり	ササにシカ食痕わずかにあり	イチイ、ハウチワカエデにシカ剥皮あり	-
林床植生	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	100%	90%	90%	90%
	植生高	-	0.1～1.2m	-	0.1～1.3m
	天然更新状況	-	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし	-	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし
保護林の状況等		エゾマツ、トドマツを主体とする林分であり、亜高木、低木層にイチイが分布する。イチイの防鹿シートが剥がれており、対策が望まれる。	林分としては比較的健全。イチイには防鹿ネットが張られているが、枯死個体は少しずつ増加している様子。エゾマツ、トドマツが生長しており、遷移の途中と考えられる。	エゾマツ、トドマツを主体とする林分であり、亜高木、低木層にイチイが分布する。イチイの防鹿シートが剥がれており、対策が望まれる。	林分としては比較的健全。少数のイチイに枯死がみられる。天然更新はみられず。エゾマツ、トドマツが生長しており、遷移の途中と考えられる。
林分等の状況		エゾシカの影響あり	イチイ立木が減少	エゾシカの影響あり	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア: 野生鳥獣 イ: 病虫害 ウ: 外来種 エ: 温暖化 オ: 自然攪乱 カ: その他 -: 特になし		確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

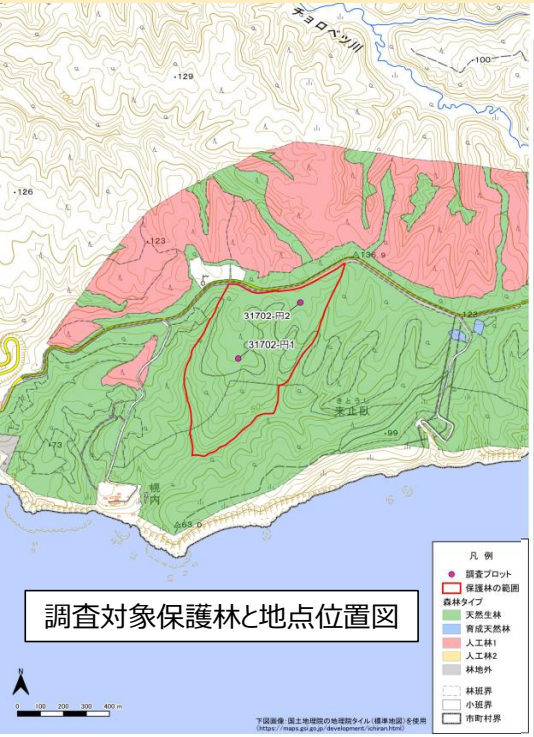




確認された影響[野生鳥獣]
・イチイの立ち枯れが多く、天然更新はみられなかった。
・エゾシカによる食害を受けている状況が確認された。
・本林分は遷移過程と考えられる。
・引き続き5年おきに詳細調査を実施してその回復状況をモニタリングする。

16 釧路アオダモ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林詳細調査(2箇所)



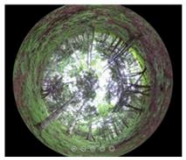
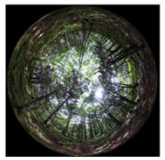
調査対象保護林と地点位置図

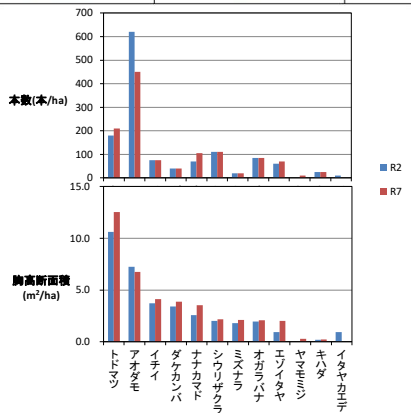
エゾシカによる剥皮

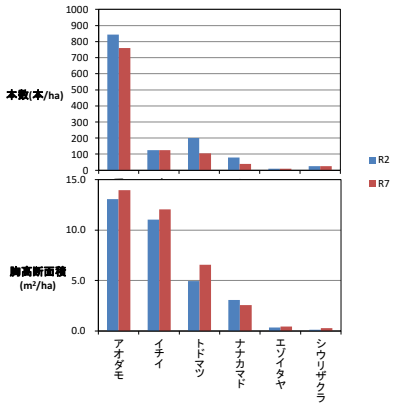
プロットNo.31702-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

プロットNo. 31702-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。





保護林森林詳細調査　総括

保護林名		釧路アオダモ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		アオダモ、イチイ			
プロットNo.		31702-円1		31702-円2	
旧No.		31702-1(159-1)		31702-2(159-2)	
調査年度		R2	R7	R2	R7
調査日		7月29日	8月27日	7月29日	8月27日
林分状況	【高】主要構成樹種	アオダモ	アオダモ	トドマツ、アオダモ	トドマツ、アオダモ
	【高】樹高	15～22m	16～22m	18～24m	18～24m
	【高】植被率	-	70%	-	80%
	【高】DBH	15～57cm	17～60cm	20～62cm	20～66cm
	【亜】主要構成樹種	イチイ	イチイ	アオダモ	アオダモ
	【亜】樹高	7～11m	7～13m	7～15m	7～16m
	【亜】植被率	-	40%	-	30%
	【亜】DBH	10～45cm	10～45cm	11～40cm	11～40cm
	【低】主要構成樹種	アオダモ	アオダモ	アオダモ	アオダモ
	【低】樹高	5m	5m	5m	5m
	【低】植被率	5%	5%	-	1%
	【低】DBH	7cm	7cm	5cm	4cm
	最大樹高樹種 樹高	トドマツ 22.3m	トドマツ 22.2m	トドマツ 24.2m	トドマツ 24.8m
	最大直径樹種 直径	トドマツ 57.1cm	トドマツ 60.5cm	トドマツ 62.8cm	トドマツ 66.1cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	50～80%	50～80%	50～80%
	気象害	風害(中)	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	プロット周辺に風倒木が散見される。	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕、剥皮、角研	食痕、剥皮	食痕、剥皮	食痕、剥皮
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	大	大	大	大
	痕跡のコメント	アオダモのシカ剥皮多い	アオダモのシカ剥皮、下層植生の食害多い	アオダモのシカ剥皮多い	アオダモのシカ剥皮、下層植生の食害多い
林床植生	優占する植物種	オシダ	シラネワラビ	ミゾシダ	シラネワラビ
	植被率	60%	70%	70%	30%
	植生高	-	0.1～1.0m	-	0.1～0.7m
	天然更新状況	保護対象種一普通 保護対象種以外一普通	保護対象種一多い 保護対象種以外一普通	保護対象種一普通 保護対象種以外一普通	保護対象種一多い 保護対象種以外一多い
保護林の状況等		一部で風倒によるギャップがみられる。エゾシカによるアオダモの剥皮、食痕が多くみられる	シカの食害が多く、保護対象種のアオダモはことごとく剥皮されている。低木層は食害の影響がみられず、防鹿ネットの設置を検討したほうがよい。天然更新は旺盛である。	エゾシカによるアオダモの剥皮、食痕が多くみられる	シカの食害が多く、保護対象種のアオダモはことごとく剥皮されている。低木層も食害の影響か少なく、防鹿ネットの設置を検討したほうがよい。天然更新は旺盛である。
林分等の状況		エゾシカによる影響あり	エゾシカによる影響あり	エゾシカによる影響あり	エゾシカによる影響あり
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

確認された影響[野生鳥獣]
- エゾシカによる剥皮が確認された。
- 林床が不嗜好植物のシラネワラビに変化していた。
- 天然更新の確認はごくわずかであった。
- 引き続き5年おきに詳細調査を実施する。

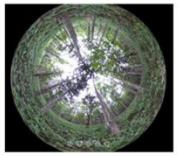
17 真竜ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査 | 保護林森林概況調査(1ルート)

調査対象保護林と地点位置図

エゾイタヤの実生

定点プロットNo.31703-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

定点プロットNo. 31703-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

保護林森林概況調査　総括

保護林名		真竜ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林		
保護対象種		ダケカンバ		
プロットorルートNo.注		31703-円1	31703-円2	31703
旧No.		31703-1	31703-2	
調査年度		R2		R7
調査日		7月28日	7月28日	8月11日
林分状況	【高】主要構成樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ダケカンバ、トドマツ
	【高】樹高	10～20m	10～20m	19～23m
	【高】植被率	-	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	30cm以上	22～51cm
	【亜】主要構成樹種	ダケカンバ	エゾイタヤ、ミズナラ	ハウチワカエデ
	【亜】樹高	10m以上	10m以上	8～15m
	【亜】植被率	-	-	20%
	【亜】DBH	10cm未満	10cm未満	12～18cm
	【低】主要構成樹種	エゾイタヤ	エゾイタヤ	なし
	【低】樹高	1～5m	1～5m	-
	【低】植被率	-	-	-
	【低】DBH	5cm未満	5cm未満	-
	最大樹高樹種 樹高	ダケカンバ 18m	ダケカンバ 18m	トドマツ 23m
	最大直径樹種 直径	ダケカンバ 60cm	ダケカンバ 40cm	トドマツ 60cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	50～80%
	気象害 病虫害	風倒(小) -	風倒(小) -	- -
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度	角研 ネズミ類(食痕) 小	剥皮、角研 - 小	剥皮、食痕 - 微
	痕跡のコメント	-	ナナカマド低木に剥皮がみられる	ハルニレの古い剥皮がみれるが、影響は軽微
林床植生	優占する植物種	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ
	植被率 植生高	密生 0.5～1.5m	密生 0.5～1.5m	100% 0.1～1.3m
	天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない
保護林の状況等		高木層のダケカンバに一部枯死がみられる。	高木層のダケカンバに一部枯死がみられる。	隠樹であるダケカンバの天然更新は見られず、ハウチワカエデ、トドマツ等の実生が少数みられる。林分としては健全な状態である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、
R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。

確認された影響[特になし]
・前回調査から林相に大きな変化は確認されなかった。
・ダケカンバの立木は健全であったが、個体数は少なかった。
・ダケカンバは陽樹であり、その他樹木の生育は良好であるため、遷移過程と考えられる。
・気象害等を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

3-3.希少個体群保護林（3/3）

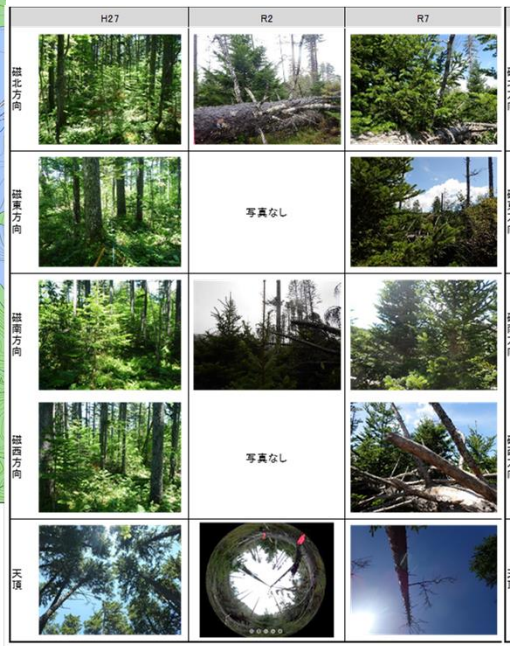
No	保護林ID	保護林名（面積）	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・提案
18	31704	滝の上第2アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林	アカエゾマツ	R2	・森林詳細調査（2箇所）	・アカエゾマツは風害により大きな被害を受けている。 ・アカエゾマツの天然更新はわずかである。 ・今後はトドマツ林に遷移していくと思われる。	10年	**確認された影響[自然撹乱]** ・今後は5年ごとに詳細調査を実施し対応を検討する。
19	31705	阿寒湖畔エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林	エゾマツ	R2	・森林概況調査（1箇所）	・エゾマツは大径木も確認されおおむね健全だった。 ・エゾマツの稚樹や実生の確認は少ない。	10年	**確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
20	31707	屈斜路ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林	ウダイカンバ	R2	・森林詳細調査（2箇所）	・ウダイカンバの立木は健全であった。 ・ウダイカンバの稚樹等は確認されなかった。 ・林床ではエゾシカの食害が多くみられた。	10年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・今後は5年おきにモニタリングを実施し、天然更新に留意していく。
21	31709	川湯イチイ遺伝資源希少個体群保護林	イチイ	R2	・森林詳細調査（2箇所）	・イチイの立木は比較的健全だった。 ・エゾシカによる食害が確認された。 ・イチイの天然更新はみられず、その他樹種も少なかった。	5年	**確認された影響[野生鳥獣]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
22	31801	落石サカイツツジ希少個体群保護林	サカイツツジ	R2	・森林詳細調査（2箇所）	・針葉樹林帯および湿地帯に大きな変化はみられなかった。 ・針葉樹林に軽微な風害がみられたが、更新も確認された。 ・サカイツツジは個体数が増加し、良好な状態だった。	10年	**確認された影響[自然撹乱]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
23	31802	落石イチイ希少個体群保護林	イチイ	R2	・森林概況調査（1箇所）	・イチイは亜高木層を形成しており、純林もみられる。 ・大径木の生育は健全であった。 ・林床にはエゾシカの痕跡が多い。 ・イチイの低木等の確認はごくわずかであった。	5年	**確認された影響[野生鳥獣、自然撹乱]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

18 滝の上第2アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林詳細調査(2箇所)

調査対象保護林と地点位置図

プロットNo.31704-円1

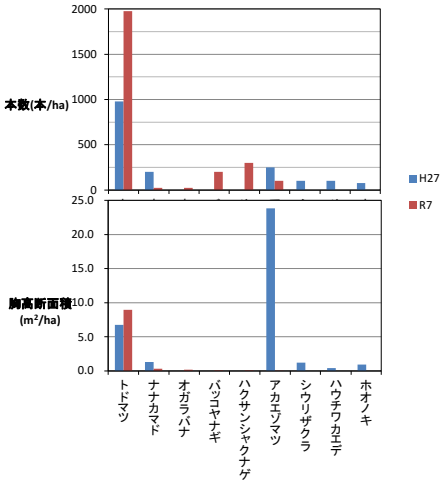


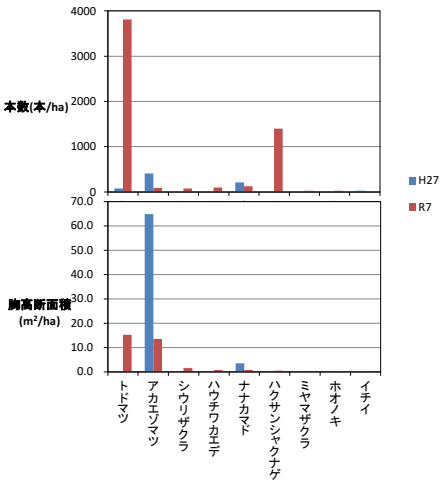
プロットNo.31704-円2

保護林森林詳細調査　総括

保護林名		滝の上第2アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林					
保護対象種		アカエゾマツ					
プロットNo.		31704-円1			31704-円2		
旧No.		160-1	31704-1(160-1)		160-2	31704-2(160-2)	
調査年度		H24	R2	R7	H24	R2	R7
調査日		7月9日	9月18日	8月28日	7月9日	9月18日	8月28日
林分状況	【高】主要構成樹種	アカエゾマツ	なし	なし	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
	【高】樹高	10～28m	-	-	10～29m	10～20m	20～27m
	【高】植被率	-	-	-	-	-	20%
	【高】DBH	30～70.1cm	-	-	30～68cm	20cm未満	18～62cm
	【亜】主要構成樹種	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	【亜】樹高	-	-	-	-	-	-
	【亜】植被率	-	-	-	-	-	-
	【亜】DBH	-	-	-	-	-	-
	【低】主要構成樹種	トドマツ	アカエゾマツ, トドマツ	トドマツ	トドマツ	ハウサンシャクナゲ, アカエゾマツ	トドマツ
	【低】樹高	1～8m	1～10m	1.5～3m	1～3m	1～5m	1.5～13m
	【低】植被率	-	-	-	-	-	70%
	【低】DBH	5～8cm	5cm未満	2～17cm	5～10cm	10cm未満	1～16cm
	最大樹高樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	トドマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
	樹高	27.9m	10m	9.4m	29.0m	15m	10m
	最大直径樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
	直径	70.1cm	30cm	47.8cm	68.1cm	50cm	61.7cm
	枯死対象種の本数割合	80%以上	20%以下	20%以下	80%以上	80%以上	80%以上
	気象害	風害(中)	風害(大)	風害(大)	風害(中)	風害(大)	風害(大)
	病虫害	-	-	-	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	風倒木や幹折れ木が散見される。	高木はほとんど風倒している	全域に立ち枯れ、風倒木がみられる	風倒木や幹折れ木が散見される。	古い風倒木多い	全域に立ち枯れ、風倒木がみられる
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	剥皮、角研	シカ逐	-	食痕、剥皮、角研	シカ逐、足跡	糞
	その他痕跡	-	-	-	-	-	-
	痕跡の程度	小	微	-	小	微	微
	痕跡のコメント	エゾシカ剥皮、角研が見られるが影響は小さい	-	-	オシダに食痕、木にナナカマドに剥皮あり		エゾシカ痕跡はわずかにみられるが、影響は無し
林床植生	優占する植物種	-	エゾイチゴ	エゾイチゴ	-	コケ類、ツツジ類	ハウサンシャクナゲ
	植被率	-	微性または散在	30%	-	微性または散在	20%
	植生高	-	05m未満	01～1.3m	-	05m未満	01～03m
	天然更新状況	保護対象種→少ない 保護対象種以外→多い	保護対象種→少ない 保護対象種以外→多い	保護対象種→少ない 保護対象種以外→多い	保護対象種→少ない 保護対象種以外→多い	保護対象種→少ない 保護対象種以外→多い	保護対象種→少ない 保護対象種以外→多い
保護林の状況等		高木層はアカエゾマツが優占し大木が多い。天然更新はトドマツが多くアカエゾマツは少ない。	風害による大きな影響を受けているが、トドマツの実生や幼木など更新木は豊富にみられる。	アカエゾマツの高木はすべて風倒または立ち枯れている。トドマツの更新が盛んでアカエゾマツのものは少なく、今後はトドマツが優占していくと考えられる。	高木層はアカエゾマツが優占し大木が多い。天然更新はトドマツが多くアカエゾマツは少ない。	風害による大きな影響を受けているが、トドマツの実生や幼木など更新木は豊富にみられる。	アカエゾマツは風倒木が少数、立枯れが多数みられる。トドマツの更新が盛んでアカエゾマツのものは少なく、今後はトドマツが優占していくと考えられる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	気象害等あり	気象害等あり	大きな変化は認められない	気象害等あり	気象害等あり
評価・課題等確認された影響 ア：野生鳥獣 イ：病虫害 ウ：希少種 エ：温暖化 オ：自然撹乱 カ：その他 ー：特になし		確認された影響[ー]	確認された影響[オ]	確認された影響[オ]	確認された影響[ー]	確認された影響[オ]	確認された影響[オ]
		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真							

風倒木の様子





確認された影響[自然撹乱]
・アカエゾマツは風害により大きな被害を受けている。
・アカエゾマツの天然更新はわずかである。
・今後はトドマツ主体の林分に遷移していくと思われる。
・今後は5年ごとに詳細調査を実施し、対応を検討する。

19 阿寒湖畔エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林概況調査(1ルート)

調査対象保護林と地点位置図

定点プロットNo.317055-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

定点プロットNo. 317055-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

保護林森林概況調査　総括

保護林名		阿寒湖畔エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林		
保護対象種		エゾマツ		
プロットorルートNo.注		31705-円1	31705-円2	31705
旧No.		31705-1	31705-2	
調査年度		R2		R7
調査日		8月25日	8月25日	8月11日
林分状況	【高】主要構成樹種	エゾマツ	エゾマツ	エゾマツ
	【高】樹高	20m以上	20m以上	23～31m
	【高】植被率	-	-	70%
	【高】DBH	30cm以上	30cm以上	37～81cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	エゾイタヤ
	【亜】樹高	10m以上	10m以上	9～18m
	【亜】植被率	-	-	5%
	【亜】DBH	20cm以上	20cm以上	13～20cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	オオバボダイジュ	トドマツ
	【低】樹高	1～5m	5m以上	2～5m
	【低】植被率	-	-	15%
	【低】DBH	10cm未満	10cm以上	2～3cm
	最大樹高樹種 樹高	エゾマツ 28m	エゾマツ 27m	トドマツ 31.0m
	最大直径樹種 直径	エゾマツ 70cm	シナノキ 90cm	トドマツ 81.2cm
	保護対象種の本数割合	50～80%	50～80%	80%以上
	気象害 病虫害	風倒(小) -	風倒(中) -	- -
	気象害、病虫害のコメント	-	プロット周辺に風倒木複数あり	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度	シカ道、足跡、食痕、角研 - 中	シカ道、足跡、食痕 - 中	食痕 - 微
	痕跡のコメント	ササやシダ類にシカ食痕あり	ササにシカ食痕多い	オシダ等にシカ食痕わずかにあり
林床植生	優占する植物種	ミヤコザサ	ミヤコザサ	シラネワラビ、ミヤコザサ
	植被率 植生高	密生 0.5m未満	密生 0.5m未満	90% 0.1～1.1m
	天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→少ない 保護対象種以外→普通
保護林の状況等		エゾマツはDBH15～20のものが多く、シナノキの大径木もみられる。	風倒木は古いものが多い。プロットの外側にはトドマツが多い。	エゾマツの立木は健全な状態である。エゾマツの実生は倒木上に少数みられる。林床にはヤチダモ、ハルニレの幼木が散見される。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣　イ:病虫害　ウ:外来種 エ:温暖化　オ:自然攪乱　カ:その他 ー:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

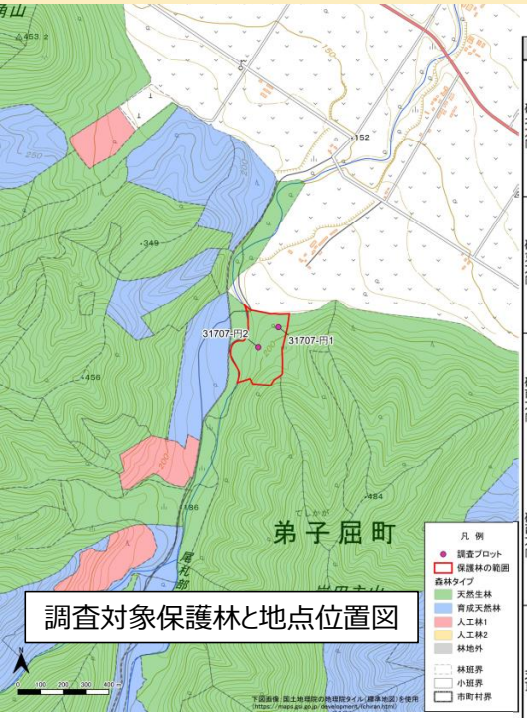
注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、
R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。

エゾマツの稚樹

確認された影響[特になし]
・エゾマツは大径木も確認され、おおむね健全であった。
・エゾマツの稚樹や実生は少ない。
・保護林は良好に保護・管理されているが、今後の天然更新には留意が必要である。

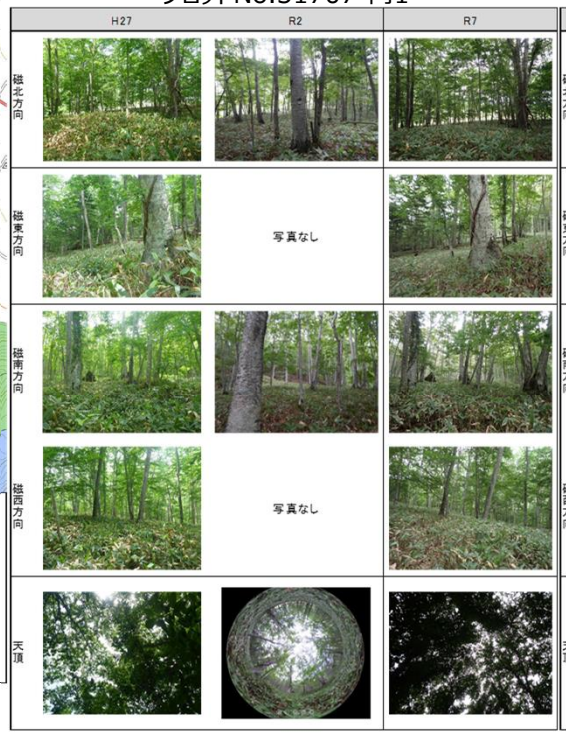
20 屈斜路ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林詳細調査(2箇所)

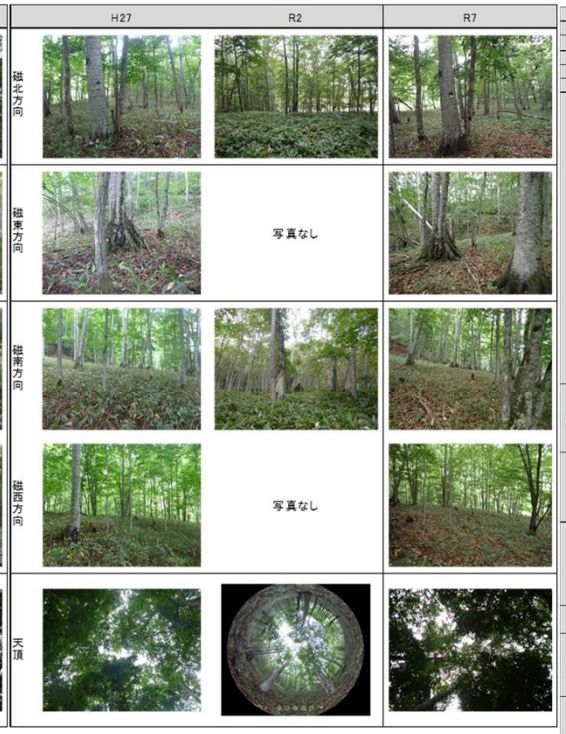


調査対象保護林と地点位置図

プロットNo.31707-円1



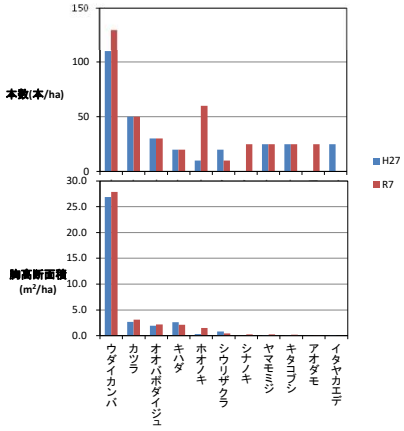
プロットNo.31707-円2

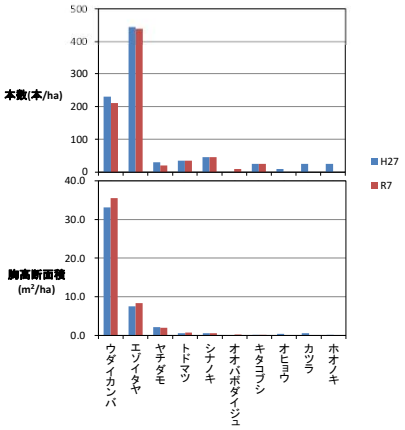


保護林森林詳細調査　総括

保護林名		屈斜路ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ウダイカンバ			
プロットNo.		31707-円1		31707-円2	
旧No.		31707-1(162-1)		31707-2(162-2)	
調査年度		R2	R7	R2	R7
調査日		9月15日	8月29日	9月15日	8月29日
林分状況	[高]主要構成樹種	ウダイカンバ	ウダイカンバ	ウダイカンバ	ウダイカンバ
	[高]樹高	20m以上	20～33m	20m以上	20～33m
	[高]植被率	-	90%	-	90%
	[高]DBH	30cm以上	24～69cm	30cm以上	28～58cm
	[亜]主要構成樹種	シウリザクラ、ヤマモミジ	カツラ	エゾイタヤ	エゾイタヤ
	[亜]樹高	5～10m	10～19m	5～10m	10～17m
	[亜]植被率	-	20%	-	30%
	[亜]DBH	10cm未満	10～45cm	10cm未満	6～20cm
	[低]主要構成樹種	シウリザクラ	ヤマモミジ	トドマツ、エゾイタヤ、シナノキ	シナノキ
	[低]樹高	1～5m	6～9m	1～5m	6m
	[低]植被率	-	5%	-	1%
	[低]DBH	5cm未満	5～10cm	10cm未満	6cm
	最大樹高樹種 樹高	ウダイカンバ 23m	ウダイカンバ 32.7m	ウダイカンバ 22m	ウダイカンバ 32.9m
	最大直径樹種 直径	ウダイカンバ 60cm	ウダイカンバ 69.2cm	ウダイカンバ 60cm	ウダイカンバ 58.9cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
	気象害 病虫害	- -	- -	- -	- -
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度	食痕 - 中	食痕 - 小	シカ道、足跡、食痕 - 大	食痕 - 中
	痕跡のコメント	主にシダ類に食痕あり	クマイザサの食痕少数あり	-	クマイザサの食痕あり
林床植生	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率 植生高	密生 0.5～1.5m	80% 0.1～1.2m	密生 0.5m未満	30% 0.1～0.7m
	天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし	保護対象種→なし 保護対象種以外→普通	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし	保護対象種→なし 保護対象種以外→多い
保護林の状況等		ササが低密度な箇所ではシカによる影響が大きく植生はまばらである。	高木層はウダイカンバが優占し、健全な状態である。各種広葉樹の実生はみられるが、低木層は少なく、シカの食害を受けている可能性がある。	シカによる影響が大きく林床植生が少ない。実生もみられない。	ウダイカンバは最大樹高30mを超え、個体数も多い。クマイザサは一定の高さでシカに食害を受けており、プラウジングラインが顕著にみられる。
林分等の状況		エゾシカによる影響あり	エゾシカによる影響あり	エゾシカによる影響あり	エゾシカによる影響あり
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

林床の様子

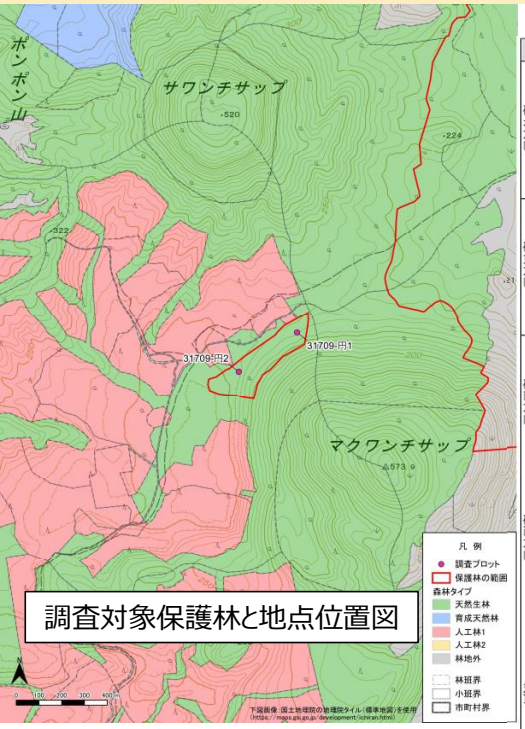




確認された影響[野生鳥獣]
- ウダイカンバの立木は健全であった。
- ウダイカンバの稚樹等は確認されなかった。
- 林床ではエゾシカの食害が多くみられた。
- 今後は5年おきにモニタリングを実施し、天然更新に留意していく。

21 川湯イチイ遺伝資源希少個体群保護林

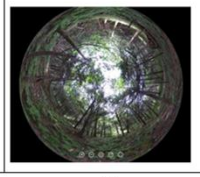
実施した現地調査	保護林森林詳細調査(2箇所)



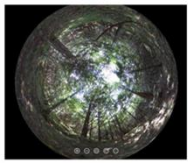
調査対象保護林と地点位置図

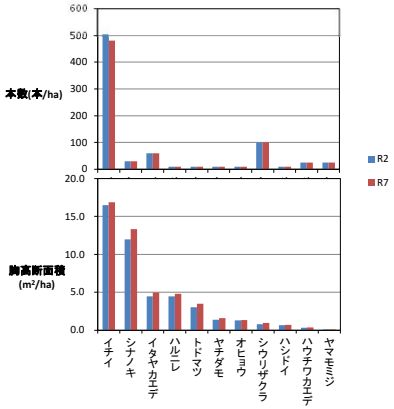
エゾシカの角研ぎ跡

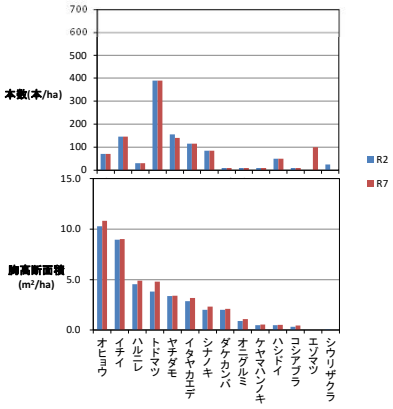
プロットNo.31709-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

プロットNo. 31709-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			やや撮影角度が違うが大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。





保護林森林詳細調査　総括

保護林名		川湯イチイ遺伝資源気象個体群保護林			
保護対象種		イチイ			
プロットNo.		31709-円1		31709-円2	
旧No.		31709-1(161-1)		31709-2(161-2)	
調査年度		R2	R7	R2	R7
調査日		8月28日	8月29日	8月28日	8月29日
林分状況	【高】主要構成樹種	イタヤカエデ、シナノキ	エゾイタヤ、シナノキ	シナノキ、ヤチダモ	シナノキ、ヤチダモ
	【高】樹高	18～28m	18～28m	17～20m	17～22m
	【高】植被率	-	70%	-	80%
	【高】DBH	17～100cm	17～100cm	17～53cm	17～55cm
	【亜】主要構成樹種	イチイ	イチイ	イチイ、イタヤカエデ	イチイ、イタヤカエデ
	【亜】樹高	8～15m	8～19m	7～15m	7～15m
	【亜】植被率	-	70%	-	60%
	【亜】DBH	7～22cm	7～22cm	4～75cm	4～75cm
	【低】主要構成樹種	シウリザクラ、イチイ	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	【低】樹高	1～5m	2～3m	2～5m	2～6m
	【低】植被率	-	10%	-	10%
	【低】DBH	8cm	1.4～2cm	1～5cm	1～2cm
	最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	ハルニレ	ハルニレ
	樹高	28.2m	29.5m	20.5m	21.8m
	最大直径樹種	シナノキ	シナノキ	イチイ	イチイ
	直径	97.2cm	101.2cm	75.0cm	74.2cm
	保護対象種の本数割合	50%～80%	50%～80%	50%～80%	50%～80%
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕、剝皮	食痕、剝皮	食痕、剝皮	食痕、剝皮
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	中	大	中	大
	痕跡のコメント	主にシダ類に食痕あり シナノキ、オヒョウ剝皮あり	下層植生の食害多い	イチイ、シナノキ、 オヒョウに古い剝皮あり	下層植生の食害多い
林床植生	優占する植物種	フッキソウ、ミゾシダ	フッキソウ、シラネワラビ	スゲ属の一種、フッキソウ	スゲ属の一種、フッキソウ
	植被率	50%	80%	40%	30%
	植生高	-	0.1～1.2m	-	0.1～0.7m
	天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない	保護対象種→なし 保護対象種以外→少ない
保護林の状況等		イチイは亜高木層に多いが、エゾシカの食痕は少ない。防鹿ネットのないイチイには対策が必要である。	保護対象種のイチイの密度は高い。低木層以下がシカによる食害で貧相である。イチイは防鹿ネットの効果で無事だが、更新木は食害を受けていると思われる。	イチイは亜高木層および低木層に多いが、エゾシカの食痕は少ない。防鹿ネットのないイチイには対策が必要である。	低木層以下がシカによる食害で貧相である。イチイは防鹿ネットの効果で無事だが、更新木は食害を受けていると思われる。
林分等の状況		エゾシカによる影響あり	エゾシカによる影響あり	エゾシカによる影響あり	エゾシカによる影響あり
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

確認された影響[野生鳥獣]
・イチイの立木は比較的健全であった。
・エゾシカによる食害が確認された。
・イチイの天然更新はみられず、その他樹種も少なかった。
・引き続き5年おきに詳細調査を実施し、林分の状況を把握する。

22 落石サカイツツジ希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林詳細調査(2箇所)

調査対象保護林と地点位置図

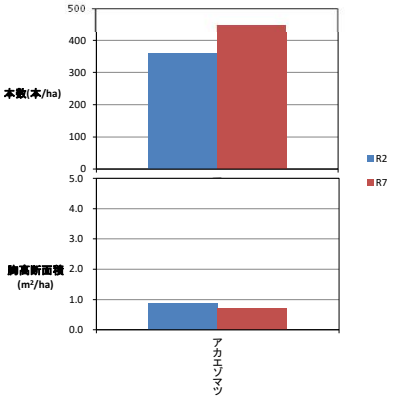
サカイツツジ

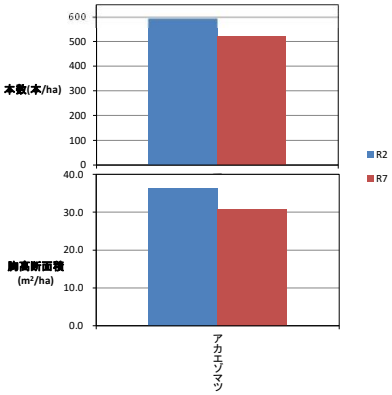
プロットNo.31801-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

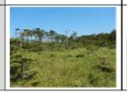
プロットNo.31801-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			立木がやや減少した。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。





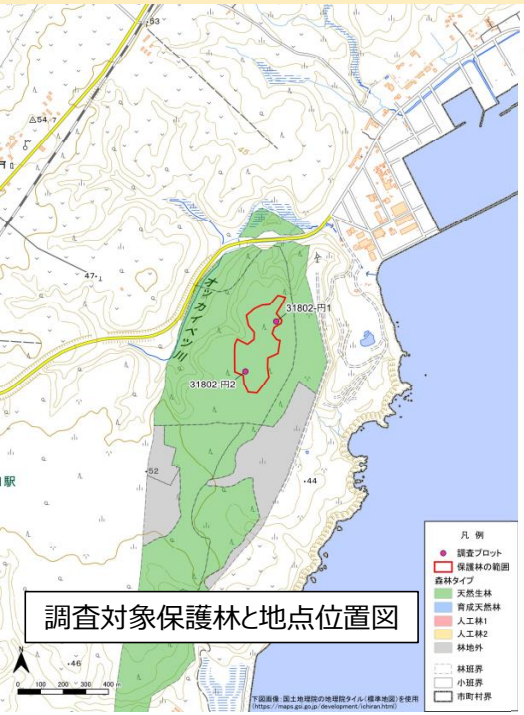
保護林森林詳細調査　総括

保護林名		落石サカイツツジ希少個体群保護林			
保護対象種		サカイツツジ			
プロットNo.		31801-円1		31801-円2	
旧No.		31801-1(170-1)		31801-2(170-2)	
調査年度		R2	R7	R2	R7
調査日		7月30日	8月29日	7月30日	8月29日
林分状況	【高】主要構成樹種	なし	なし	アカエゾマツ	アカエゾマツ
	【高】樹高	-	-	17～20m	12～15m
	【高】植被率	-	-	-	50%
	【高】DBH	-	-	17～53cm	18～44cm
	【亜】主要構成樹種	なし	なし	アカエゾマツ	アカエゾマツ
	【亜】樹高	-	-	7～15m	7～10m
	【亜】植被率	-	-	-	10%
	【亜】DBH	-	-	4～75cm	10～15cm
	【低】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
	【低】樹高	3～8m	1.5～4m	2～5m	2～5m
	【低】植被率	-	30%	-	5%
	【低】DBH	5～19cm	3cm	1～5cm	3～6cm
	最大樹高樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
	樹高	7.9m	3.1m	16.6m	15.0m
	最大直径樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
	直径	19.4cm	7.8cm	49.9cm	44.0cm
	保護対象種の本数割合	-	-	-	-
	気象害	-	-	風害(小)	風害(小)
	病虫害	-	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	幹折れ、風倒木がややみられる	幹折れ、風倒木がややみられる
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、糞、目撃	シカ道	シカ道、糞、目撃	-
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	中	中	中	-
	痕跡のコメント	エゾシカ多数目撃	エゾシカのサカイツツジへの影響は無し	エゾシカ多数目撃	-
林床植生	優占する植物種	ヤチスゲ	チシマガリヤス	アカエゾマツ	ヤマドリゼンマイ
	植被率	50%	90%	20%	90%
	植生高	-	0.1～1.1m	-	0.1～1.2m
	天然更新状況	-	-	あり(アカエゾマツ)	あり(アカエゾマツ)
保護林の状況等		サカイツツジは谷地坊主の上に生育している。	湿地。草本類は各種の被度に変化はあるが、過年度から大きな変化はない。サカイツツジの生育は健全で増加傾向がみられる。	一部で風倒が見られるが影響は軽微。プロット内にサカイツツジはみられない。	アカエゾマツの純林。土壌が軟らかく、根返り倒木もある。やや攪乱気味だが、天然更新はみられる。プロット内では、過年度同様サカイツツジの確認なし。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 一:特になし		確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[一] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[オ] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

確認された影響[自然撹乱]
・樹林帯および湿地帯に大きな変化はみられなかった。
・アカエゾマツに軽微な風害がみられたが更新も確認された。
・サカイツツジは個体数が増加し、良好な状態であった。

23 落石イチイ希少個体群保護林

実施した現地調査	保護林森林概況調査(1ルート)



調査対象保護林と地点位置図

保護林の景観

定点プロットNo.31802-円1

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

定点プロットNo.31802-円2

	R2	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[野生鳥獣、自然攪乱]
・イチイは亜高木層を形成しており、純林を形成している箇所もある。
・大径木の生育は健全であった。
・林床にはエゾシカの痕跡が多い。
・イチイの低木等の確認はごくわずかであった。
・小規模な風倒が確認された。
・今後の天然更新の状況にはやや留意が必要である。

保護林森林概況調査　総括

保護林名		落石イチイ希少個体群保護林		
保護対象種		イチイ		
プロットorルートNo.注		31802-円1	31802-円2	31802
旧No.		31802-1	31802-2	
調査年度		R2		R7
調査日		7月30日	7月30日	8月26日
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	【高】樹高	12～18m	12～18m	13～20m
	【高】植被率	-	-	80%
	【高】DBH	24～75cm	21～54cm	25～70cm
	【亜】主要構成樹種	イチイ	イチイ、アオダモ	イチイ
	【亜】樹高	7～10m	7～10m	7～12m
	【亜】植被率	-	-	50%
	【亜】DBH	9～48cm	7～48cm	10～57cm
	【低】主要構成樹種	アオダモ	なし	エゾニワトコ
	【低】樹高	1～4m	-	2～5m
	【低】植被率	-	-	10%
	【低】DBH	6～10cm	-	2～6cm
	最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	ダケカンバ
	樹高	18.5m	18.3m	20.9m
	最大直径樹種	トドマツ	ケヤマハンノキ	ダケカンバ
	直径	75cm	54.0cm	95cm
	保護対象種の本数割合	20～50%	20～50%	20～50%
	気象害	-	-	風害(小)
	病虫害	-	-	-
	気象害、病虫害のコメント	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	足跡、食痕、角研	足跡、食痕、角研	シカ道、足跡、食痕
	その他痕跡	-	-	-
	痕跡の程度	小	小	小
	痕跡のコメント	エゾシカ足跡やや多い	エゾシカ足跡やや多い	エゾシカ3頭目撃
林床植生	優占する植物種	オシダ	オシダ	シラネワラビ
	植被率	80%	90%	80%
	植生高	-	-	0.1～1.8m
	天然更新状況	-	-	保護対象種→普通 保護対象種以外→少ない
保護林の状況等		防鹿柵のほか、イチイに防鹿ネットが巻かれておりその効果で食害を免れているが、アオダモ等ほかの樹種で食痕が見られる。	防鹿柵のほか、イチイに防鹿ネットが巻かれておりその効果で食害を免れているが、アオダモ等ほかの樹種で食痕が見られる。	イチイの大径木には防鹿ネットが巻かれており生育は健全。イチイの稚樹、低木はごくわずかで更新はやや不安。保護林内にイチイの純林が所々にみられる。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[ア、カ]
		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、
R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。